

38

国内唯一のエポナイト素材工場！
オリジナル万年筆「笑暮屋(えぼや)」も好評！



株式会社日興エポナイト製造所

TEL.03-3891-5258 FAX.03-3891-5259
URL <http://www.nikkoebonite.com/>

代表者: 代表取締役 遠藤 智久
所在地: 〒116-0002 荒川区荒川1-38-6
資本金: 1,000万円
従業員: 14人

創業年: 昭和27年
業種: ゴム製品製造業
事業内容: エポナイト製品製造



遠藤 智久
代表取締役

下請けからの脱却

「エポナイト樹脂」この存在を知る人は少なくなった。エポナイトとは天然ゴムと硫黄を混合・加熱することによって出来る硬質ゴムで万年筆の軸材や木管楽器のマウスピース等の材料に使われている。かつてはボウリングの球や電球のソケットにも広く使われていたが、石油系プラスチックに代替されて、国内メーカーは当社だけとなる。エポナイト以外の工業用ゴム製品の下請け製造も需要が減少、規模の縮小も余儀なくされた2007年、MACCに入会。様々なセミナーや



ギターピック「シーラカンス」

展示会、産学連携プロジェクト等を経て、2008年経営革新計画の認証取得、「下請けからの脱却、BtoC市場への挑戦」をテーマに商品開発をする事となった。

オリジナル万年筆「笑暮屋(えぼや)」の誕生

商品開発はカラーエポナイト棒の開発から始まる。苦労の末、開発に成功したカラーマーブルエポナイト。「これを商品化しよう」と、杖、三味線の撥、ハンコ、ギターピックなど様々な商品開発を検討した末に、万年筆製造にたどり着く。轆轤(ろくろ)職人に協力を仰ぎ、軸を製作。万年筆修理職人にペン先の調達、取り付けを依頼し、2009年3月荒川区産業展に出展・販売を行い実績を上げた。「これは事業になる」と確信し、WEBショップを立ち上げ、各種展示会にも出展。百貨店パイヤーの目に触れることとなり、2011年には三越等の百貨店の催事に呼ばれ、知名度が上がっていった。2014年には工場に隣接した万年筆ショップを開店。国産万年筆ブランドとして国内外で話題となる。



「笑暮屋」の万年筆

明日の飯の種を創る「あすめし会」

荒川区は2008年、「荒川区産業活性のためには後継者の育成が不可欠である」との観点から、MACCの分科会として「あすめし会」を発足し、後継者の経営力向上のため、勉

強会や工場見学会などを行ってきた。2012年には自主運営に移行、会の代表として当社社長の遠藤智久氏が就任し、各種勉強会(オープンセミナー)や交流会(下町サミット)等を開催するようになった。

23区の経営者をつなげる「下町サミット」

次に「あすめし会」は、東京23区の若手経営者等が交流、意見交換、相互理解、情報発信するための場として、「下町サミット」を開催。開催場所を23区各地に移しながら、若手経営者が連携して企画から開催までを一貫して行っている。「下町サミット」はこの活動により、23区内外の若手経営者の経営力の向上及び地域産業の活性化に寄与することを目的としている。



下町サミット

世界中に広がるエポナイトの輪

エポナイトメーカーは世界でも2,3社しか存在しない。ならば海外でもエポナイトを欲しがっている人はいるはず」と2011年より海外向けBtoBマッチングサイトに掲載。競合他社に比べ「品質が良い」「デリバリー対応が迅速」と高く評価され、年々顧客数を増やし、売上の2割を占めるほどの事業となっている。今後もこれに更に拍車をかけ「世界シェアトップ」を目指す。

主な保有設備

・真空成型機 2台・成形機 20台・ガスボイラ 2基・ロール 4台・裁断機 2台・恒温槽 3台・押し出し機 5台・加硫缶 3台・NC旋盤 1台・轆轤旋盤 2台・ベンチレース 3台・バッファー 1台・フライス盤 1台・ボール盤 3台・切断機 2台・溶接機 1台

主な認証・実績等

・第三種電気主任技術者・第3回、第4回TASKものづくり大賞奨励賞・経営革新計画認証取得(2回)・実用新案「2WAYセラウエッジ」・日本橋三越本店、新宿伊勢丹本店、ロサンゼルスペンション他出店・平成22年荒川区長より「MACC会員企業感謝状」受贈・第1回荒川区新製品・新技術大賞優秀賞受賞

